

(様式第7号)

地域の課題解決のための活動報告

記入日：令和2年6月23日

作成者： 芦田 耕司

地域の課題解決のために行った活動を1つ選び、できるだけ具体的数値を挙げて報告してください。すべての項目に、一般の人に伝わりやすいようにご記入ください。

*この報告はあしや市民活動センターのホームページに掲載されます。

(登録を公開している団体のみ)

団体名	
NPO 法人 兵庫県暮らしにやさしい防災・減災	
事業名	日時(期間), 場所
「防災かるたで楽しく遊ぼう!学ぼう!」 「地震・集中豪雨・土砂災害・台風」に備えよう!	令和1年7月23日(火) コープデイズ芦屋3階 集会室
内容(実績) *実施したことを具体的に	受益者数
1. 平成30年に起きた「地震・集中豪雨・土砂災害・台風」などの災害に備えるよう映像を使って励ますとともに、ペットボトルで100ミリの雨量計を作り液状化の実験にも取り組みました。 また、お話の中で自然災害が10以上含まれている防災かるたの命を守る大切なキーワードを覚えるように励ましました。	児童・園児と父兄及び地元の方などが参加。 読売テレビ8月23日放映。
	参加者数 スタッフ含む (41) 人
成果(社会へのインパクト) *どのような良い変化を社会にもたらしたかを具体的に	
<p>災害国日本に住む私たちはいつ、どこで、どんな災害に逢うか判りません。そこで、阪神大震災の時のお話と、防災かるたで楽しく遊びながら防災・減災の正しい知識を学び、「自助」意識と「防災力」を高められるように努めました。</p> <p>再び来る直下地震の減災!のスライドとお話して、いきなり来るタテ揺れにはかるたの読み札の「すき間に緊急避難して守ろう命」と励ましました。</p> <p>小学生と園児たちとご父兄や地域の方たちも参加されましたのでいっしょに大きな災害も乗り越えられるように「共助」の気持ちも高まったと感じています。</p>	
今後の展望(どのように継続、発展するか)	
災害国日本では、正常性バイアス(偏見や先入観)のために防災・減災は「自分は大丈夫」とか、「他人事」と捉えている方が大変多い中で、かなり風化してきている阪神大震災の経験をもとに「自助」意識の向上をめざして啓発活動を粘り強く続けていきます。このような活動に加え、芦屋市立の小学校8校のキッズスクエア(放課後こども教室)においてもかるた取りなどで防災・減災啓発活動を継続していく予定です。いろいろな機会に子供たちが正しい「防災・減災」の知識を学ぶことにより、やがて成人し次の世代の子供たちにその知識を伝えていけるように励まして、「災害文化」を築き、国が勧める国土強靱化につながれば幸いです。	